

## 「信州ナレッジスクエア」の現況について

信州ナレッジスクエアは、「信州」を切り口にして多様な情報源にたどり着ける、地域情報資源のポータルサイト(ネット上の玄関)として、2020年4月から運用し、5つのコンテンツが稼働中。

長野県内の博物館・美術館、図書館、文書館などが所蔵している電子化されたコンテンツを登録して、インターネットを通じて公開・発信することを想定。

「信州サーチ」による、ジャパンサーチへの県レベルのメタデータの集約機能について検討。

アクセス先: <https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal.html>



### ● 全体

- ✓ 2020年9月 第4回信州・知の連携フォーラム (リレー式ワークショップ第2弾)
  - 「わが町・わが館のお宝情報発信術:信州ナレッジスクエアの育て方」
  - ・ 発見の可能性
  - ・ 公開に対する意識
  - ・ 権利とのバランス
- ✓ 現在の課題
  - ・ 全体のビジョンの確認と各事業者の状況の確認。
  - ・ 7、8月中に全参加事業者参加のもと、現在のトレンドに合わせた提案等を含めて全体のビジョンに関するミーティングを開催予定。
  - ・ 次年度以降において「信州発・これからの図書館フォーラム」で他機関との連携を拡大してどのような充実が可能か協議。

### ● 信州サーチ

- ✓ 適宜オンラインミーティング実施。
  - 「信州サーチで図書館がどのようなことを実現したいか」に応じて技術提供協議。
  - 新規連携館については随時提案。

## ● 信州デジタルコモンズ

- ✓ 既存メタデータの修正・新規メタデータ定義に関するDB改修中。7月中旬に完了予定。  
完了を受けて新規参加館を募集し、各館が所蔵するデジタルコンテンツの掲載を促進する。

- ・ 【例】長野県立歴史館蔵「信州善行寺参詣記念」



- ・ 今後の参加館には「長野県標準形」として作成したメタデータを Excel で提供してもらおう。  
コンテンツとして静止画 (TIFF、JPEG 等)、映像、音声、PDF ファイル等を登録。  
原則としてコンテンツデータはクリエイティブコモンズライセンスで公開。

- ✓ 現在の参加館のジャパンサーチへのメタデータ提供については調整中。

## ● 想・IMAGINE・信州

- ✓ 3 か月ごとに当館図書のデータ全件送付。ビジョンに照らした検索対象の追加検討。

## ● eReading 信州学

- ✓ 「わたしたちの信州学」に加えて新たなコンテンツとなる資料の検討。  
(学校の自治体史の副読本で許諾得られるもの)

## ● 信州ブックサーチ

- ✓ 2020年6月 (株)カーリルによる「COVID-19：学校図書館 支援プログラム」を活用して長野県男女共同参画センター(あいとぴあ)蔵書検索追加。  
この仕組みを使って蔵書公開できそうな施設には紹介。
- ✓ 現在大学図書館2館対応依頼。

## ● 「長野県リポジトリ（仮称）」

- ✓ 各館や各部署、民間研究団体の刊行物、県民の知的生産物をデジタルで収集・保存・発信し、知の循環を図り、確実に次世代へ引き継ぐ仕組み。

(イメージ図)

- ・ 【例】『信州大学附属図書館研究』第9号（※信州大学リポジトリの例）

[https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/search?search\\_type=2&q=1963](https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/search?search_type=2&q=1963)

機関リポジトリ

入力後、Enterキーを押下し検索してください

全文  キーワード

Index List

990 附属図書館 (University Library) / 9902 紀要・刊行物

/ 99021 信州大学附属図書館研究 (Journal of the Shinshu University Library) : ISSN 2186-7593

表紙

目次

翻刻 中西悦夫撮影「島崎藤村先生木彫像制作過程写真」: 木曾教育会木曾郷土館保管資料 ●●● 1 - 95

石井鶴三と木曾人の奥行き: 木曾馬神明号制作に関わって ●●● 97 - 104

石井鶴三作・島崎藤村像とその周辺: 信州大学蔵「石井鶴三関連資料」から ●●● 115 - 136



石井鶴三と木曾人の奥行き  
— 木曾馬神明号制作に関わって —

福江良純 (北海道教育大学)

木曾における石井鶴三の業績には、島崎藤村木彫像制作事業を第一として、そこから派生するように組み込まれた木曾馬像制作事業がある。数年に亘ってなされた藤村木像に比べ、木曾馬像はわずか8日間に2体の粘土原型が成るといふ短期の事業であった。しかしながら、馬という動物に対する石井の思いの深さは、同じく生涯愛してやまなかつた山の高さに匹敵するものがあり、加えて木曾人の木曾馬に対する心を知るに及ぶ時、作品木曾馬からは時空を超えた広がりが見られる。本稿は、本誌第八号上の写真家基教氏による小論「木曾馬の記念写真に見る創造性 — 演戯する意識を失った現代とは —」で注目された集合記念写真に関し、その後に判明した事実を補完するとともに、木曾人と木曾馬の絆の奥行きを記すものである。

参考 流れイメージ図

